

II部・日本文芸作品作家研究ゼミナール (10)d : 中島敦の文学とその系譜(ゼミナール 選抜の手引き : 学習の方法)

勝又, 浩 / 岡崎, 哲也

(出版者 / Publisher)

法政大学国文学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

56

(開始ページ / Start Page)

119

(終了ページ / End Page)

120

(発行年 / Year)

1997-07-12

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00019982>

小説の創作

委員 三年 浦川 謙一

笠原淳教授にご指導いただいている我々のゼミは文芸、主に小説の創作を行うゼミである。初めの授業時に笠原教授より出されたテーマを基に、各人原稿用紙三枚程度の小説を書き、それを授業に持ち寄って批評するという形を取っている。批評はまず笠原教授が全体の印象、感想等を述べ、文章の構成や展開に関する問題点、或いは優れている点を過去の文学作品の例を交えつつ指摘し、続いて学生が一人ひとり自分の意見や感想を述べていく。学生の批評は専門的である必要はなく、時には主観的な感覚批評さえも行われる。批評される側はそれらの意見の中から(たとえ教授の指摘であつて

も)自らに有効であると思われるもののみを受け入れる事が許されている。

作品に関して決められていることはテーマと枚数のみで、ジャンルや形式は全て自由であり、従つて特定の参考文献はない。それだけに小説のレベルを上げるためには各人の日頃の努力と創作意欲が必要とされる。また自分にそぐわないと思われる意見に対しても参考として心に止めておく位の柔軟さは必要である。

作品の発表の他に、小冊子の発行も行っている。二年生は一年に一冊、三年生は二、三冊発行している。作品の枚数制限は特になく、普段短編中心の当ゼミでも長編に挑むことができる。またテーマや形式も自由である。小冊子の作成は学生の中から編集委員を決め作成を行う。

当ゼミは設立されてからの年数が浅いため、未だ授業形式などのシステムが確立しておらず、改善の余地が残されている。毎日の授業での作品発表は二年生が中心なので、三年生が何をするかが当面の課題である。とはいえ、それは学生に選択の自由が与えられているということでもある。この自由度の高さこそが当ゼ

ミの長所であると考える。

担当教員 笠原 淳 先生

日本文芸研究ゼミナール(14) 文芸(詩歌・小説・評論など)創作 川村 湊 先生

編注：今回、学生委員未決定による連絡ミスのため、内容の詳細については省略させて頂きます。御了承下さい。

II部・日本文芸作家研究ゼミナール(10)d
——中島敦の文学とその系譜——

委員 三年 岡崎 哲也

「山月記」などで知っている人も多いと思うが、極めて短期間の作家生活と、加えて時代が苛烈な戦争下という悪条件が重なり、戦前の論評は少ない。この中島敦の作品をとりあげ、また夏目漱石や井上靖などの作家の作品とともに比較していく。

ゼミの進め方としては、それぞれの作品ごとに何人かのグループをつくり発表し、そこで気づいた疑問点・問題点などを討論し、問題を深めていく。

今年とりあげる作品は、中島敦「古譚」「過去張」「弟子」(いずれも筑摩文庫版「中島敦全集」)。他に夏目漱石「夢十夜」、佐藤春夫「田園の憂鬱」、井上清「孔子」。

参考書・『中島敦―昭和作家のクロノトポス』(双文社出版、3800円税別)

担当教員 勝又 浩 先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(1) a

日本語学の研究方法 間宮厚司先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(2) a

唐代の詩文 安藤信廣先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(3) a

源氏物語(第二部) 天野紀代子先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(4) b

徒然草 杉本圭三郎先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(5) b

能楽研究 西野春雄先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(6) c

雨月物語(前期) 日暮 聖先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(7) d
戦後の「青春文学」と「老年文学」
小笠原賢二先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(8) d
生成変形文法による日本語の分析
佐川誠義先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(9) d
昭和文学、特に戦後の作家から
堀江拓充先生

日本文芸作品作家研究ゼミナール(11) a
古事記 坂本 勝先生

※委員Ⅱ各ゼミナールのゼミナール委員
(代表者) もしくは学生委員(連絡係)。

* * *
二年間のゼミナール履修は卒業論文に直結しますから、日本文学科の学生にとって、その選択はとても大切です。ところが最近、履修学年の変動があり、ゼミ登録は新鮮な一年時となりました。しかしながら一年生にはとまどいも多いようです。

従ってここでは、新学期、選出されたゼミナール委員諸君の目を通してゼミナールの様子を見ることにしました。紹介の仕方には若干の差があると思いますが、適切な参考文献も示されています。十分研究して、充実した第一歩を踏み出すのに役立ててください。

ただ残念なことにⅡ部に於ては四月中旬までにどのようなゼミナール委員が選出されたか掴めず、十分なコンタクトがとれません。そこで勝又ゼミ以外にはゼミの内容と担当教員とを列挙するにとどめました。御了承ください。

編集者